

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇5月25日～

先週の為替相場はあまり動きがなく、停滞した状態が続いています。

日本の介入警戒感からドル／円は上値をトライする動きがおさえられています。

円高になる理由もないことからドル／円は高値圏で張りついています。

企業決算のニュースなどで株価は好調です。NY ダウは史上最高値更新となっています。

カタルが米国とイランの交渉を支援するために交渉チームをイランに派遣したというニュースもあり、期待感から株価を押し上げているようです。

ただし、交渉が上手くいかなかった場合、イランに対して大規模攻撃を計画しているという話もあり、数日以内に大きな動きがあるかもしれません。

気になるのは、長期金利が上がってきていることです。

特に日本の長期金利の上昇は一本調子で下がる気配がありません。

昨年末に10年物国債の利回り(長期金利)は2%を超えましたが、上昇が続き、2.8%程度となっています。5月に2.5%を超えてからのスピードも速いように感じます。

2024年に長期金利が1%を超えたあたりから、日本でも実感としてインフレ(物価高)を感じている人が増えているのではないのでしょうか。

2024年あたりからの金(ゴールド)や長期金利の上昇がインフレ(物価高)と連動した動きに見えます。株や不動産もこのあたりから大きく上昇しています。

このまま日本の長期金利が3%を超え、米国の長期金利が5%を超えて上がり続けるとリスク資産に影響が出てくるとの声も出ています。

金利が上がると不動産や株にはマイナスになります。

今まで金利が低かったことで株や不動産に資金が流入していました。しかし、金利上昇が止まらなくなってくると資金の逆回転(資産の投げ売り)が起こるリスクが高まります。

日銀の中にも景気後退よりも物価高(インフレ)を心配する声が出てきています。

ホルムズ海峡の閉鎖の影響が出てくるのはこれからです。

夏以降、日本の利上げが想定以上に進む可能性もあるかもしれません。

FRB議長もパウエル氏が退任し、ウォーシュ氏になりました。利下げより利上げを考えるべきという意見がFRBの中でも増えてきています。

米国が年内に利上げに動く可能性もあるかもしれません。

金利は全てのマーケットに影響を与えます。金利が動くとマネーの流れが変わります。

中東問題から世界的なインフレが急激に進む場合、金融政策も想定していたものと変わってくるといことです。

25日は米国と英国が祝日となっています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週は高値圏で動きがほとんどなくなっています。

158.5－159.5円程度のせまいレンジ内での動きとなっています。

160円あたりでは介入警戒感が強まるため上値トライの勢いがありません。

上値は159.4円を超えると159.8円あたりが視野に入りますが159円台で無理に買うのはリスクが高そうです。下がってきたところを買っていきたいです。

下値は158円を割り込むまでは高値圏での推移が続くそうです。

158円を割り込むと156円台まで下落する可能性があります。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での動きが続いているペアが多く、動きが少なくなっています。

ユーロは184－185.5円程度のレンジを動いています。

どちらにブレイクするか注目したいです。ユーロ／ドルで見るとユーロが弱くなっているためユーロ／円も上昇の勢いは弱まる可能性があります。

豪ドルも115円手前で上値が重くなり下げてきています。

先週安値の112.6円を割り込む動きには注意したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では5月東京都都区部消費者物価指数、4月鉱工業生産などがあります。

米国では3月ケース・シラー米住宅価格指数、5月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、5月リッチモンド連銀製造業指数、4月個人消費支出(PCEデフレーター)、前週分新規失業保険申請件数、4月耐久財受注、1－3月期GDP(改定値)、4月新築住宅販売件数、5月シカゴ購買部協会景気指数などの発表があります。

欧州では、ユーロ圏で5月消費者信頼感指数、ドイツで5月消費者物価指数などがあります。

ほかには、ニュージーランドと南アフリカで政策金利、カナダで1－3月期GDP、3月GDPの発表などがあります。